

令和元年度 第3回豊橋市総合教育会議議事録要録

令和元年12月5日 開 催

豊 橋 市 教 育 委 員 会

第3回 総合教育会議	
日時	令和元年12月5日(木) 午後3時00分～4時00分
場所	市役所東館4階 政策会議室
構成員	佐原 光一 市長 山西 正泰 教育長 高橋 豊彦 教育委員 渡辺 嘉郎 教育委員 内浦 有美 教育委員 中島 美奈子 教育委員
事務局	黒釜 直樹 財務部長 大林 利光 教育部長 古池 弘人 都市計画部長 駒木 正清 教育監 三世 善徳 美術博物館事務長 石川 和志 生涯学習課長 木下 智弘 学校教育課長 角野 洋子 教育政策課長 浅倉 淳志 教育政策課主幹 ほか 6名
その他	傍聴人 0名

議 事 日 程

市長あいさつ

協議事項

魅力ある美術博物館について

その他

今後の協議事項について

連絡事項 …次回開催日程 ・令和2年2月27日(木) 15:00～

(市長)

ただいまから令和元年度第3回豊橋市総合教育会議を開催させていただきます。

協議事項

魅力ある美術博物館について

■美術博物館事務長 協議事項について資料説明

(市長)

今の説明につきましてご意見ご質問がありましたらお願いしたいのですが。

(高橋委員)

まず、資料のはじめに「施設運営などの課題を整理し40周年を機に今後の方向性を明確にする」とありますが、これが今回の議論のポイントになるかと思います。

先日、教育委員が収蔵庫も含めていろいろ見させていただきましたが、空調なども含めて施設の老朽化が目立ちました。収蔵品の保管という点で、緊急性があると思います。バリアフリーの面でもいろいろやらないといけないかもしれません。今後の方向性と結びつけて考えたときに、お金をかければ入場者が増えるという話に終始しないよう、話題性をもたせるようなことから始められるといいですね。バリアフリーについては、名古屋城のエレベーターの問題がありましたが、構造上、豊橋の美術館で何かするのが大変であれば、例えば、バリアフリーに関するものを三河材で作るなど、話題性をもたせてバリアフリー化するのも面白いかと思います。今後の方向性を話し合う中で良いアイデアが出せるといいです。

(市長)

まず、二つの問題があります。今後、美術博物館としてどういう展示や収蔵をしていかなければならないのかという役割の話と、施設としてこのままでいいのかという話です。

役割についての問題は、お金を、入場者数を増やすためにかけるのか、収蔵品の質の向上のためにかけるのかという点です。施設については、カッコいい施設をつくるのか、機能としてバリアフリーやエアコンなど必要十分なものにしていくのかという点です。先ほどの事務局の説明では、何をめざすのか具体的ではありませんでしたが、話し合っても答えが出なかったということでしょうか。

(高橋委員)

豊橋公園全体で見たときの機能という点でも論じる必要があると思います。例えば、図書館というものに対する考え方が変わってきているように、美術館も今後どうなるのか、どうしていくのかということをお話し合っていく必要があるのではないかと思います。どうでしょう。

(市長)

今の話について、事務局で何かありますか。

(美術博物館事務長)

現状、課題が多く、バリアフリーの対応もできていない状況ですが、改修計画が進みつつありますので、その中でできる限りやっていきたいと考えております。ただ、現機能の強化ということなので、この施設を大きく変えるようなことはできません。現機能の中でどう変えていくかという視点で考えていくことになります。

(市長)

施設に関しては、バリアフリーは当然やらなくてははいけませんし、屋内の壁も白くなくなっていて美術品を鑑賞するのにふさわしいとは言えません。あと、エアコンの修繕も必要です。エレベーターについて考えた時には、今の建物の中にエレベーターを組み入れるという余地はありません。新しいものを組み込むとしたら面白いことをするしかありません。

(高橋委員)

構造的に、ホールのあたりに中庭などをつくるなどして、そこで面白いことをするしかないのではないのでしょうか。

(市長)

データからわかることは、市民ギャラリーはみんな関心を失いつつあるということです。

(美術博物館事務長)

資料の5ページにありますように、平均1,600人だったのが900人に減っています。

(市長)

展示を希望する団体数も減っていますね。団体が減ってきたのか、それとも、他に展示できる場所等ができたのでしょうか。

(美術博物館事務長)

団体も減っていますし、会員が高齢でやめていく場合もあります。今まで案内を出してくれていた人たちが高齢化してきています。新しく団体を作られる方もいますが、今までの方たちが全体的に減少していることが大きいです。

(市長)

企画展をしたときの人数も出ていますが、これは、周辺の市町村の美術館が企画展を行った場合と比べてどうですか。

(美術博物館事務長)

企画の内容にもよるのですが、ほぼ平均と思われます。

(高橋委員)

昨年、豊川市でやっていた蜷川実花さんの企画はどうですか。

(美術博物館事務長)

2万人弱です。豊川市としては、入場者数が多い結果でした。

(高橋委員)

話題と企画によって入場者は増えると思いますが、やはりお金の問題もありますよね。

(市長)

収蔵とか企画をやるときのお金のかけ方についてですが、これまでのような予算の使い方ではなく、例えば、基金みたいにして良い作品が無いならお金を積んでおいて、良い作品が出たときに購入する、という方法をとっている美術館も多いようです。そうすることで何が良いのかというと、美術品を担当する人の目利きができるようになります。安いときに買って、それが高くなることもあるし、お金に余裕があると、担当が良いと思ったものを思いきって購入できる場合もあります。単年度予算というのは、この世界には向いていないのではないかと思います。

要するに、人を呼ぶ企画展のためには、大きかろうが、小さかろうが、高かろうが、安かろうが、目玉になるものが出た時に買う。目利きの人も、人生をかけるぐらい本気で買うものを考えることが重要です。

(渡辺委員)

今、美術博物館で一番の高価な作品は何ですか。

(美術博物館事務長)

一番高いのは岸田劉生さんの作品です。

(内浦委員)

私は、高校生の時に豊橋美術博物館で本物のゴッホを見た時の衝撃が大きくて、美術に関わる仕事をしたいと思いました。そして、美術館のアルバイトを申し込みました。豊橋の子どもが、そういう何かに刺激を受けて動き出すような経験ができるといいと思います。

(市長)

みんなが良い作品と思えるものが何かしらあるはずですよ。ここぞというときに使えるといいですね。

(教育長)

市民ギャラリー展をどうにかできないでしょうか。例えば、岸田劉生作品を常設展にして、基本の料金で見てもらい、企画展は企画展で料金を払ってもらい、という形にして、よくある美術館のようにするのはどうでしょう。豊橋公園の一角に屋外展示をして、箱根の彫刻の森美術館みたいに屋外美術館みたいにしても良いのではないですか。

(高橋委員)

今、瀬戸内がそういう形で町おこしをしていて、20代の子たちが、それを見るために来ているそうです。景色も良くて、自転車でもわるといいうのもセットになっています。館内だけの美術館という話ではなく、周辺の一体感があるから人が来るということもあり、そこにはテーマ性があります。豊橋も、今の施設にお金をかけるよりも広がりをもたせられるのではないのでしょうか。

(市長)

豊橋公園というすごくいい環境の中に美術館はあるんですね。

(渡辺委員)

美術館に行きやすくするために周辺の整備もできるといいと思います。

三の丸会館も近くにあるので、屋外を含めて動線をうまく作って活用できるといいです。今のままではもったいないと思います。

(市長)

あそこの茶室はすごくいいですよ。そこに美術品があってもいいですね。

ところで、美術品の貸し出しはしていないのですか。

(美術博物館事務長)

昔は貸し出しもしていたのですが、湿度や照明など保管に適している場所でないといけないという問題があり、現在はしておりません。

(市長)

高価な作品や貴重な作品であればそうですが、もっと気軽なものをプラットで演劇をやる時などに貸し出すことはできないでしょうか。面白い演劇などをやる時にちょっと飾ってあるといいなと思うことがあります。

(高橋委員)

美術館入口の照明がほかの美術館と比べると暗いですね。最近の美術館は、やっぱり入口は明るくて開放的な感じ、入りやすい感じがします。今のままでは、気楽に入ろうかなという感じがしないです。展示室は暗くてもいいかもしれませんが。

あと、圧迫感があるというか、照明の向きや配置も気になります。入口に入る階段までは明るい感じですが、そこからもう一歩入るのに躊躇してしまう気がします。

(渡辺委員)

確かにそうかもしれません。私も、中に入らずに帰ってしまうことがありました。

(市長)

いま風ではないですが、空間の使い方は面白い建物だと思います。

(中島委員)

常設展についてですが、貝塚の展示は個人的には好きです。豊橋にどんな場所や物、事柄があったのかがわかりますし、豊橋の歴史を大事にしてきた「人」が見えてくるような展示がいいです。常設展では、「豊橋」を大事にしてきたことが伝えられるといいと思います。

(教育長)

美術館は美術館の機能、博物館は博物館の機能として分けた方がいいと思います。

(高橋委員)

収蔵品の話で、豊橋にはあれだけ作品があるのに、それを見るができないのはもっ

たいないと感じます。豊橋には、日本画の作家さんが多くいて、いろいろな展覧会で展示されている人が何人もいます。

(教育長)

それが常設展でいいと思います。やはり市民ギャラリーのあり方を考えないといけません。

(内浦委員)

美術館は教育委員会の中にあることから社会教育の視点が大切です。社会教育として、どういう施設にするのか、という見方が必要ではないでしょうか。例として、東京都美術館と芸大が一緒になって森のプロジェクトというのを子どもたちに向けてやっていました。美術館の絵からは作家さんの情熱が伝わってきます。来館した人にとっても、何かを感じたり語り合ったりする施設になっています。

お金をかけて新しいものを用意するのではなく、市民や子どもたちを巻き込んでいき、今あるものをどのように活用して楽しんでいくか、生活や価値観を豊かにしていくことができるかを考えていけたらと思います。

(市長)

動物園が、美大などと連携し、子どもたちも巻き込んでいろいろやっています。プラットもこだわりを持って作り上げてきました。美術館については、これから改築しようとしているときなので、これだけは譲れないというものをもって、施設のあり方や事業内容を決めて進めていけるといいです。

収蔵作品も多くサポートクラブがあるので、それらを上手に活用して動いてください。

(渡辺委員)

若い人の意見は積極的に取り入れられるといいです。

美術部の子どもたちの意見を聞くなどして何かやってもらうのはどうですか。美術館のあるべき姿について夢を語ってもらうとか。

(教育長)

渡辺委員のおっしゃったことはすぐにできます。「市長さんと語ろう会」のように「美術博物館職員と語ろう会」のように若者の声を聞くことはすぐにできることだと思いますので、こういう美術館はいいよという声を聞いてみてはどうでしょう。

今後の協議事項について

■教育政策課長 資料説明

連絡事項

- ・ 次回開催日程
令和2年2月27日(木)